



連携・協働による持続的に発展するまちづくり

相模原市は橋本駅及び相模原駅周辺を首都圏南西部における「広域交流拠点」と位置付け、周辺都市からの求心性を高める都市づくりを推進しています。

橋本駅南口では高校跡地の土地利用の転換に向けて「まちの将来像」及び「まちづくりの誘導方針」を示す「相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン」を令和5（2023）年11月に策定しました。

本資料は多様な主体との連携・協働による持続的に発展するまちづくりを進めるために、まちづくりガイドラインにまちのイメージを新たに加えて概要版として作成したものです。

- ・本市はリニア、圏央道及び鉄道3路線により橋本駅周辺を交通結節点として広域とつながります。
- ・国の首都圏広域地方計画では、リニアの神奈川県駅(仮称)を含むエリアを首都圏南西部国際都市群として位置付け、「首都圏の新しい拠点形成を図る」としています。
- ・本市では橋本駅及び相模原駅周辺の一体的なエリアにおいて、多様な都市機能の集積を促進するとともに、アクセス性の高い立地特性を生かし、首都圏南西部における広域交流拠点の形成を目指しています。

三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成

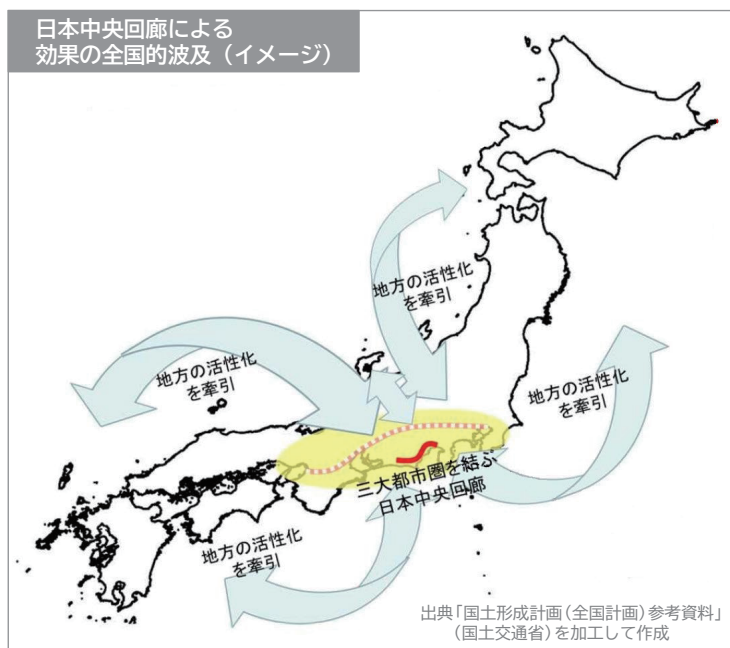
リニアの開業により東京・大阪間は約1時間で結ばれます。国の国土形成計画では、将来にわたって東京圏・名古屋圏・大阪圏の三大都市圏※1がそれぞれの特徴を発揮しながら結ばれる新たな交流圏域を形成することにより、地方の活性化を図るとともに、世界からヒト、モノ、情報等を惹きつけ、我が国全体の国際競争力の強化につなげるとしています。

また、リニアの開業により三大都市が結ばれることで、都市圏人口7,300万人※2、都市圏におけるGDPは日本全体の約64%※3になると想定される巨大な経済圏が誕生します。

本市と三大都市圏間の所要時間は、橋本・品川間は約10分(約40分短縮)、橋本・名古屋間は約60分(約60分短縮)に短縮され速達性が飛躍的に向上します。

- ※1 三大都市圏：東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・愛知県・岐阜県・三重県・大阪府・京都府・奈良県・兵庫県
- ※2 都市圏人口：2020年総務省住民基本台帳
- ※3 都市圏におけるGDP：第三次国土形成計画(全国計画)、内閣府「国民経済計算」より算出

日本中央回廊による
効果の全国的波及(イメージ)

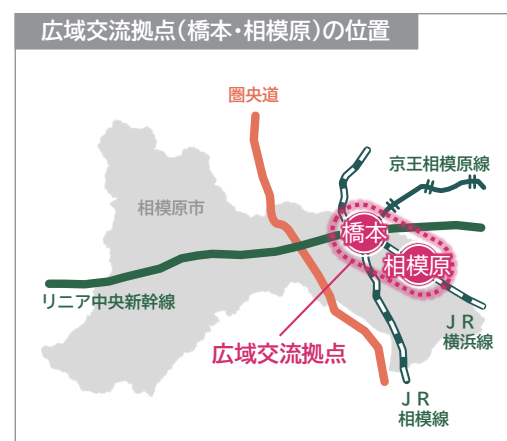
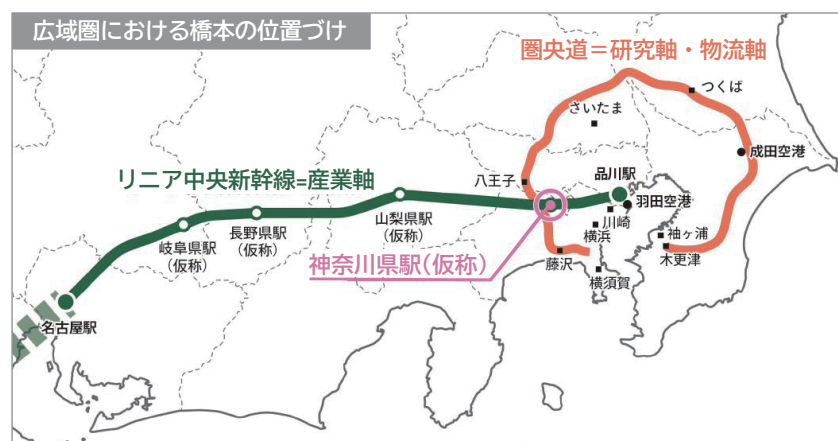


出典「国土形成計画(全国計画) 参考資料」
(国土交通省)を加工して作成

圏央道によるアクセス性向上

圏央道の開通及び市内2カ所のインターチェンジの開設により、研究機能や物流機能が集まる藤沢などの湘南地域、八王子、つくば等首都圏郊外の主要都市へのアクセス性が向上しています。

今後、圏央道相模原インターチェンジからのアクセス道路を整備することにより、更なるアクセス性の向上を図ります。



神奈川県駅(仮称)の60分圏域の人口は約985万人(交通手段が自動車の場合)

※『リニア中央新幹線中間駅を核とする「新たな広域中核地方圏」の形成』(R5.7)より

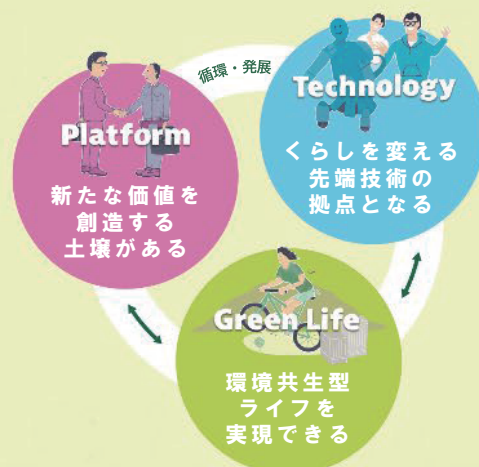
リニアでつながる

一步先の未来を叶えるまち橋本

リニア、圏央道及び鉄道3路線により**広域とつながる**橋本は、ものづくり産業の集積・多様な人々の往来・豊かな自然環境など多くのポテンシャルを有しています。

そのポテンシャルを生かし、最新の都市の潮流や技術を柔軟に取り入れ、**橋本ならではの一步先の暮らし**を実現します。

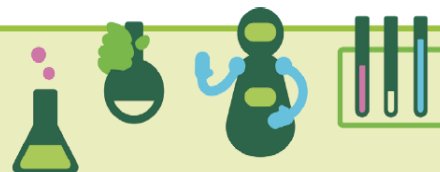
そして、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人が出会い、つながることで生まれるイノベーションにより、**循環・発展をつづけ、未来を拓くまち**を目指します。



未来のまちのイメージ

次のような未来を叶えるため取組を進めています。

先端技術に支えられた快適なまち



- ・さがみロボット産業特区や多摩イノベーション交流ゾーンに集積するものづくり産業・大学・研究施設等と連携した拠点が形成され、高度人材や企業等のオープンイノベーションが促進されています。
- ・ロボットや生活支援技術、ICT等の先端技術が日常生活に浸透し、スマートシティが実現しています。

駅を起点とした歩いて楽しいまち



- ・様々な交通が適切に誘導され、乗り換え利便性の高い交通ネットワークを形成することにより、公共交通の利用が促進されています。
- ・まちなかに人々が集い、安全安心に過ごすことができる歩行者空間が形成されています。

コンパクトでくらしやすいまち



- ・橋本駅を中心に複合的な都市機能が集積し、生活利便性が高く誰もがくらしやすいまちが実現されています。
- ・相模原駅と連携した交通ネットワークに支えられ、周辺市街地からアクセスしやすい中心市街地が形成されています。

自然環境と連携した脱炭素社会

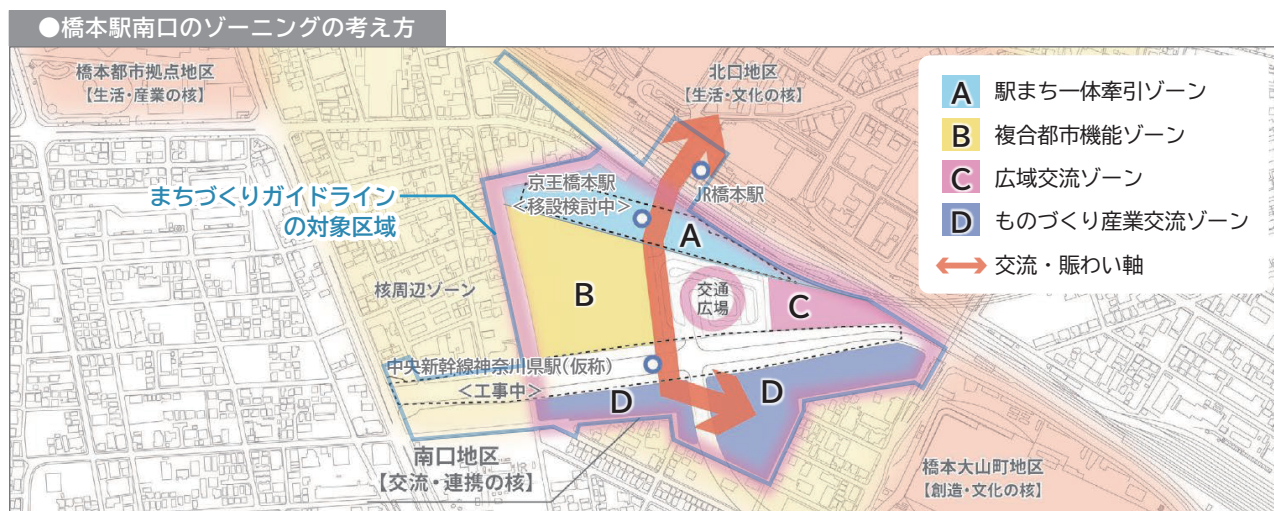


- ・近接する豊かな自然環境と連携した、本地区ならではの環境共生型ライフスタイルが確立されることにより、脱炭素社会が実現されています。



駅前の土地利用の考え方

拠点商業地として多様な都市機能の集積を図るとともに魅力ある空間を創出することで、賑わいと魅力ある交流・連携の核を形成します。また、商業業務機能の集積を図るため、まちづくりガイドラインの対象区域（以下「本地区」という。）を中心に用途地域を「商業地域」に変更することを基本とするとともに、土地の高度利用を推進します。



多様な都市機能の集積

住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人を支え、交流・連携を促す多様な都市機能の導入を誘導し、生活利便性が高く誰もがくらしやすいまちづくりを促進します。

各ゾーンの特徴と期待される波及効果

A 駅まち一体牽引ゾーン

多様な人々の往来を生かし、まちの顔として中心的な賑わいを形成し、駅を起点としたまちの利便性の向上と、駅とまちの一体感の醸成、まち全体へ賑わいを広げます。

想定される施設例

交通拠点、オフィス、商業、飲食、都市型居住など

B 複合都市機能ゾーン

子どもから高齢者まで様々な世代の活動を支える複合的な都市機能の導入を図り、働きやすさ、住みやすさ、過ごしやすさを兼ね備えた、橋本ならではのライフスタイルを実現します。

想定される施設例

オフィス、商業、飲食、福祉、医療、生活支援施設、コミュニティ施設、まちづくり活動拠点、都市型居住など

C 広域交流ゾーン

圏域全体の観光、物流、産業等に関する交流・発信機能や交通広場と連携した交通結節機能、広場機能の導入を図るとともに、まちの発展に合わせた様々なトライアルを実践し、まちの新たな魅力を創造します。

想定される施設例

交通拠点、イベントスペース、情報発信拠点、観光関連施設、商業、宿泊など

D ものづくり産業交流ゾーン

研究、インキュベーション、交流等の機能導入を図り、広域から高度人材が集まる交流・連携の拠点として、圏域内外のものづくり産業の更なる発展や新たな技術創造を牽引します。

想定される施設例

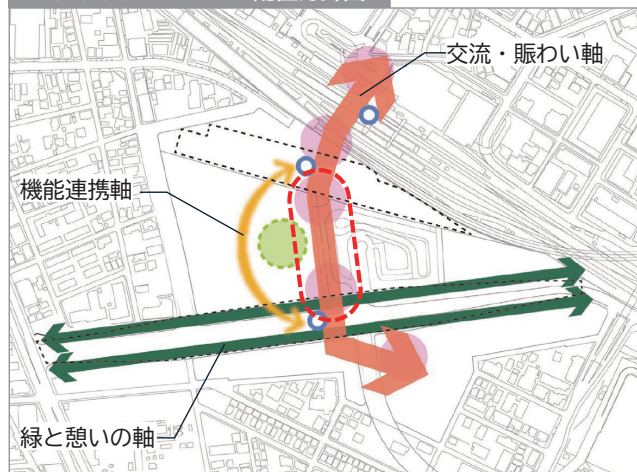
展示場・ホール、会議室、インキュベーション（起業支援）、コワーキングスペース、行政窓口、宿泊、地域産業促進の拠点、研究施設、教育施設など



パブリックスペースの配置イメージ

交流・賑わい軸、機能連携軸及び緑と憩いの軸を中心に、まちが一体となった居心地がよく歩きたくなる空間を形成します。

パブリックスペースの配置方針図



凡 例

- **交流・賑わい軸**
(賑わいが連続する、まちのメインストリート)
- **緑と憩いの軸**
(自然環境と調和した、憩いや潤いが感じられる軸)
- **機能連携軸**
(駅と施設をつなぐ、心地よく過ごすことができる軸)
- まちの顔となる景観を形成
- 回遊の起点となる空間
- ゆとりある憩いの空間
- 鉄道駅改札口

交流・賑わい軸と緑と憩いの軸の断面イメージ

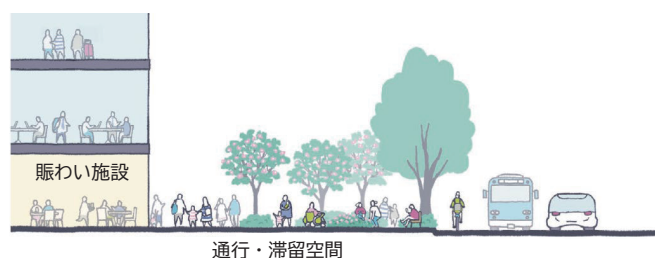
交流・賑わい軸

施設の賑わいが通行空間へ表出し、歩いて楽しいストリートを形成

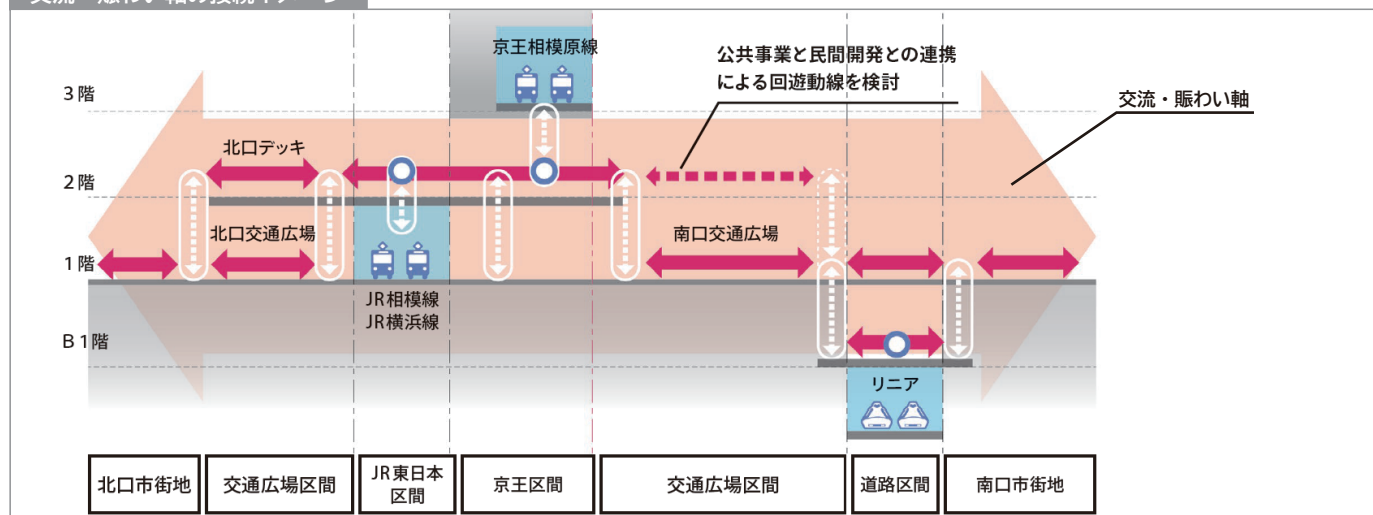


緑と憩いの軸

ゆとりのある歩行者空間を整備し、植栽を連続して配置することで緑を身近に感じられる開放的な空間を形成



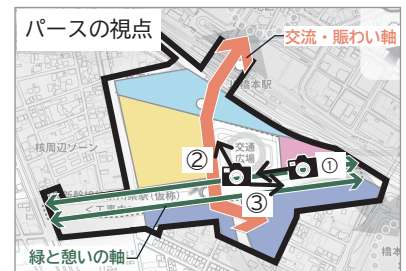
交流・賑わい軸の接続イメージ



参考

まちづくりガイドラインに基づく まちのイメージ

まちづくりガイドラインの誘導方針を踏まえて、今回新たにコンセプトの展開イメージと土地利用のイメージを描きました。このイメージをきっかけに、まちでの過ごし方の想像を広げ、市民の皆様と一緒に空間づくりを進めていきます。

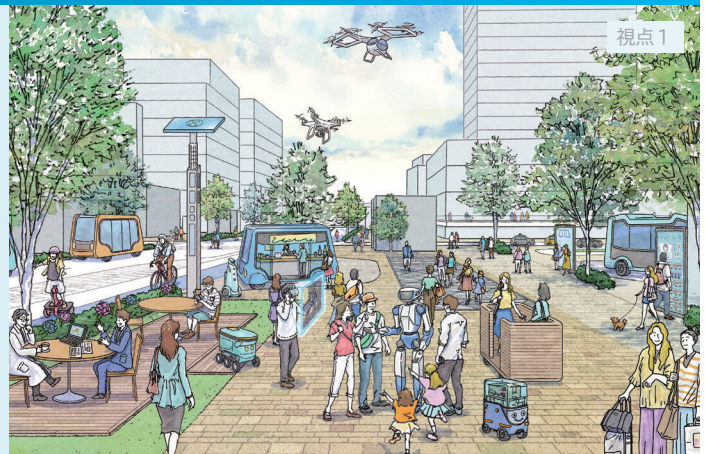


交流・賑わい軸や緑と憩いの軸のイメージ

Technology／くらしを変える先端技術の拠点となる

広域の産業・研究開発機能と連携する拠点を形成し、ロボットや航空宇宙、生活支援技術、ICT等の先端技術がそばにあるまちを目指します。

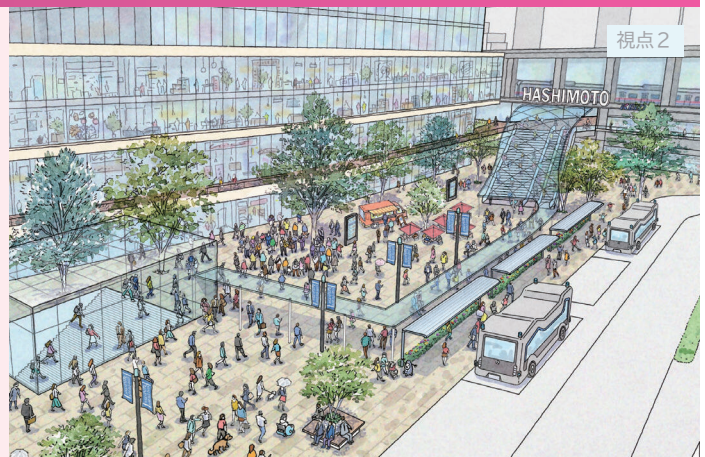
- ・学生、起業家、研究者等多様な人材の交流・結合を促進するなど、イノベーションが生まれる環境の形成
- ・地区内外での移動の利便性向上に向けた自動運転やAI等を活用した新たなモビリティサービスの導入を検討



Platform／新たな価値を創造する土壌がある

リニアがもたらす人々の交流や活動の圏域の拡大を生かし、まちに集まる多様な人々をつなぎ、出会いの連鎖を引き起こすことで新たな価値を創造します。

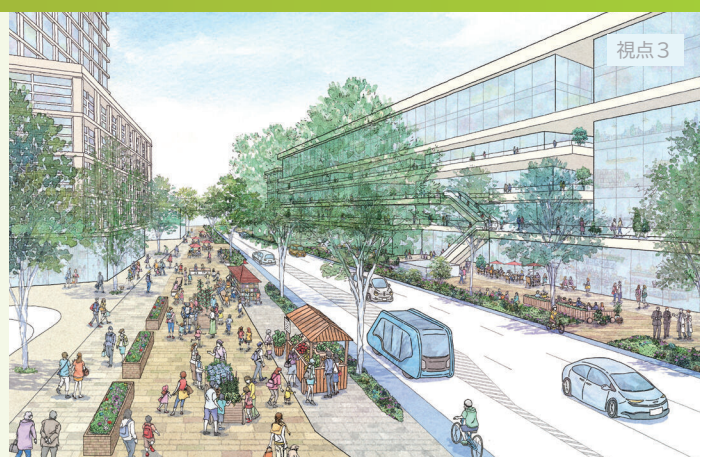
- ・「まちに関われる場」を形成し、橋本で住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人が出会い、ともにまちを育てることで、橋本ならではの一步先の未来を実現
- ・エリアマネジメントの仕組みづくりを視野に入れ、パブリックスペースの良質な空間の管理・運営などには、民間事業者のノウハウの活用を図る。



Green Life／環境共生型ライフを実現できる

都市部での脱炭素型まちづくりと豊かな自然環境との連携により環境共生型ライフスタイルの実現を目指します。

- ・ゆとりある歩行者空間を生かし、植栽を連続して配置することで緑を身近に感じられる開放的な空間を形成
- ・土地利用の計画の深度化に合わせ、まちの個性を感じる「やまなみ」の眺望が確保された視点場の設置や、周辺市街地との調和に配慮した沿道への緑化施設の配置などを検討



トライアルのイメージ

新たな技術が生み出される

ロボットやモビリティの実証実験、試乗会等をまちで行います。
まちには最先端の技術を実装します。

次世代モビリティ実証事例：



公共空間の利活用

市民、行政及び民間の連携により、公共空間を柔軟に活用し、シティプロモーションや新たな価値を創造する取組を推進します。

共創によるまちづくり事例：



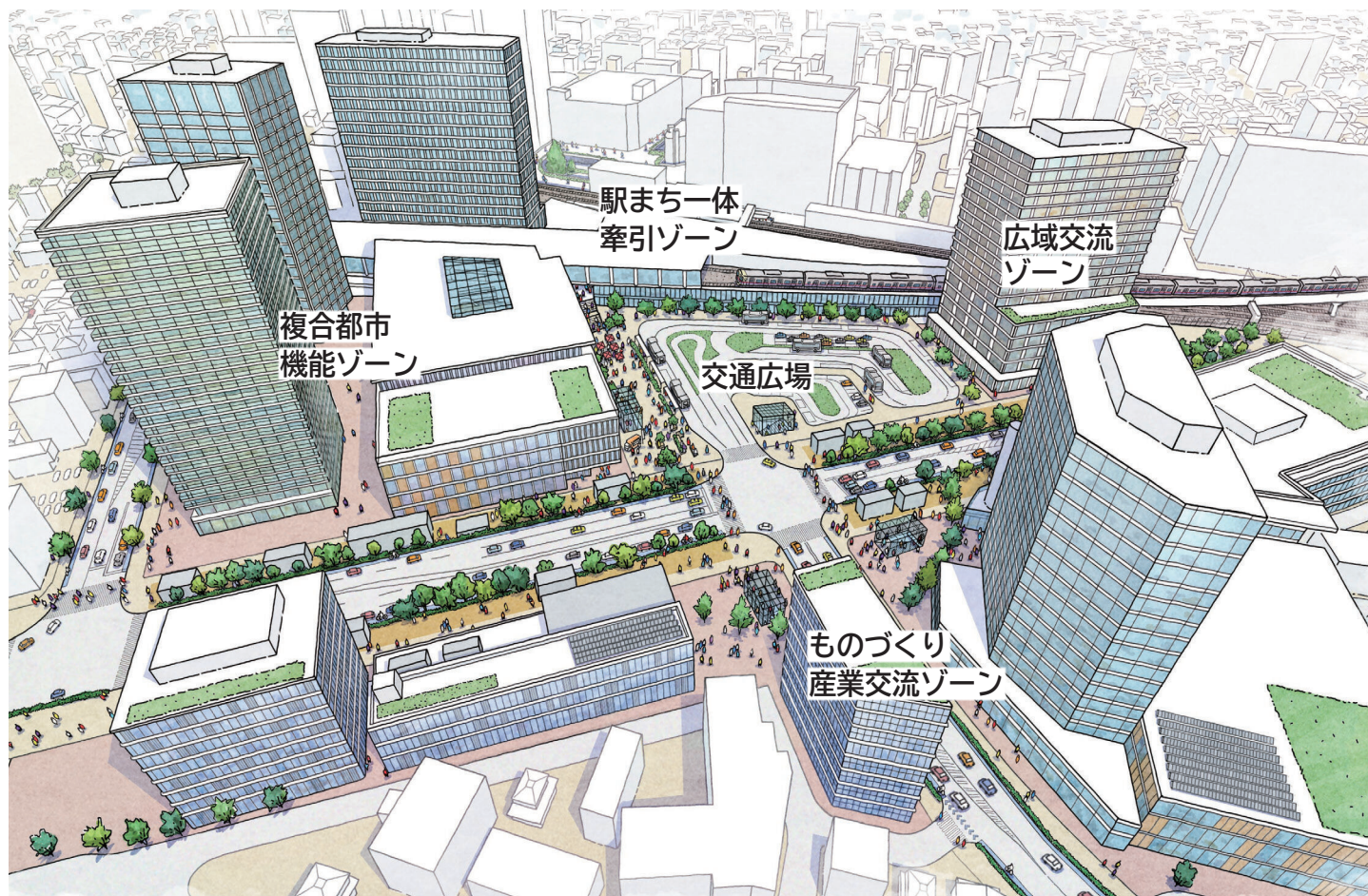
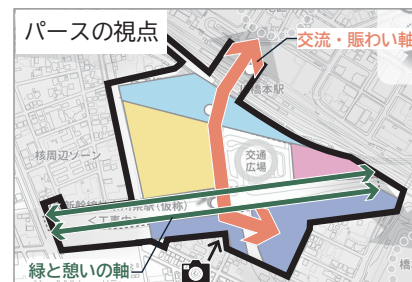
地域の緑・賑わいをはぐくむ

市民が身近に触れ合うことができる地域の縁をはぐくみます。多様な人々が連携し、まちの賑わいを形成します。

まちの植物を守り育てる活動事例：



土地利用のイメージ



注) このイメージ図は、まちづくりガイドラインに記載の内容を踏まえて本地区の将来の土地利用をイメージしたものであり、施設配置や高さなど、具体的な開発計画に基づくものではありません。



まちづくりガイドラインの本編は市HPに掲載しています

問い合わせ先
相模原市 都市建設局 リニアまちづくり課
電話 042-707-7047(直通)

令和7(2025)年11月14日発行